

平成27年度 稲築西小学校評価

【学校教育目標】
夢の実現に向け、友だちと共に、元気に学ぶ児童の育成

【本年度の重点目標】
一学校経営一
・ 協働体制の確立(評価90P以上)
・ 校内研修の充実(授業研全担任実施)
・ 学校環境の整備(評価95P以上)
一教育指導一
・ 基礎学力の向上(NRT学力検査2Pアップ)
・ 不登校(遅刻)の減少(不登校児童5名以下)
・ 称賛活動の推進(評価90P以上)
・ あいさつのできる子どもの育成(評価85P以上)

領域	項目	評価指標	自己評価	自己評価を踏まえた改善策	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
組織運営	校内組織運営の充実	学校の教育目標や教育方針が明確に示されているか。 ＜結果＞教員のAB評価93%(+14) 本年度の重点等についての共通理解がすみ、共通実践の成果がもたらす手ごたえが、数値に反映されていると考える。	4	・ 内容について具体を示し、十分な共通理解のもと取組を推進することを継続する。	・ 適切に評価されています。 ・ 組織運営がよくできていることがうかがえます。	・ 内容について具体を示し、十分な共通理解のもと取組を推進することを継続する。
		校務分掌組織が連携し、協働体制で取組を行っているか。 ＜結果＞教員のAB評価93%(+25) 各分掌部会の活動の円滑化に加え、学年経営の評価・改善が確実に進められていることが評価につながっていると考える。	4	・ ミドルリーダーに対し、各分掌組織の円滑な実働と一層の機能化に向けた働きかけを継続し、連携と協働体制の確立を図る。 ・ 学年経営の充実を目指し、評価・改善シートの活用を継続する。	・ 適切に評価されています。 ・ 取組を継続してください。	・ ミドルリーダーに対し、各分掌組織の円滑な実働と一層の機能化に向けた働きかけを継続し、連携と協働体制の確立を図る。 ・ 学年経営の充実を目指し、評価・改善シートの活用を継続する。
		学習環境整備に努めているか。 ＜結果＞教員AB評価83%(-3) 学級にとどまらず、学年や委員会など様々な活動についても取組の足跡を残し、子ども達が頑張りを実感できるような環境整備を行ったことが数値に反映されていると考える。	4	・ 学習の成果を子どもたち自身が実感できるよう、より一層の学習環境整備の工夫に努めるとともに、分割授業等や取り出し授業で使用する学習室の環境整備を推進する。	・ 適切に評価されています。	・ 学習の成果を子どもたち自身が実感できるよう、より一層の学習環境整備の工夫に努めるとともに、分割授業等や取り出し授業で使用する学習室の環境整備を推進する。
		子ども達は、学校を楽しく感じて登校してきているか。 ＜結果＞児童AB評価87%(-2) 問題行動やトラブルはあるが、クールダウンの時間を保障したり、迅速に解決を図ったりすることで、速やかに楽しい活動に復帰できていることが評価につながっていると考える。勉強を楽しく感じながら、取り組んでいるか。	3	・ 称賛活動を中心に子ども達の居場所づくりを意識した教育活動の創造に努める。	・ 適切に評価されています。 ・ 先生方の思いが子ども達へ伝わっていると思われれます。	・ 称賛活動を中心に子ども達の居場所づくりを意識した教育活動の創造に努める。
教育課程・学習指導	確かな学力	＜結果＞児童AB評価82%(+4) 子ども達の学力実態に即した学習形態や授業づくりの工夫を子ども達が受け止めてくれていることがうかがえる。	3	・ ユニバーサルデザインの視点を生かした授業改善を推進するとともに、子ども達が達成感や充実感を覚えるよう習熟度別学習や取り出し授業等の充実を図る。	・ 適切に評価されています。 ・ 取組を継続してください。	・ ユニバーサルデザインの視点を生かした授業改善を推進するとともに、子ども達が達成感や充実感を覚えるよう習熟度別学習や取り出し授業等の充実を図る。
		基礎学力の定着ができていますか。 ＜結果＞NRT学力検査52.4ポイント(+5.7) 実施を見通しての粘り強い繰り返し学習や学年毎の課題克服の取組が成果を生み出したと考える。	4	・ 学力向上コーディネータのリーダーシップのもと 授業改善はもとより、反復学習等、日々の取組について確かな共通理解と共通実践の徹底を継続する。	・ 適切に評価されています。 ・ 子どもに、勉強が好きだと思わせることの大切さが感じられます。	・ 学力向上コーディネータのリーダーシップのもと 授業改善はもとより、反復学習等、日々の取組について確かな共通理解と共通実践の徹底を継続する。
		思考力・判断力・表現力の育成ができていますか。 ＜結果＞ 教員のAB評価76%(-3) 意識的な取組はあり、成果が明らか学年もあるが、知識・理解の定着が時間的に上回ること、職員の課題意識の高まりが数値を抑えていると考える。	3	・ 言語活動の充実を図りながら、「問いづくり、思考づくり、価値づくり」のある授業をめざして校内研修を展開し、組織的に授業改善を図っていく。	・ 適切に評価されています。 ・ 取組を推進して行ってください。	・ 言語活動の充実を図りながら、「問いづくり、思考づくり、価値づくり」のある授業をめざして校内研修を展開し、組織的に授業改善を図っていく。 ・ アクティブラーニングに関わる研修を設定する。
		家庭学習に取り組んでいるか。(学年×10) ＜結果＞児童AB評価86%(+9)・提出率87%(+9) "新"家庭教育宣言の取組の中に位置づけて2年目となる本年度、第4期の取組では提出率が90%に達した。意識の高まりが数値につながっていると考える。	3	・ メディア依存の予防を視野に入れながら、学習習慣の定着に向けて、家庭との連携・協力を推進する。	・ 適切に評価されています。 ・ 大きな問題だと思えます。家庭との連携・協力を大切にしてください。	・ メディア依存の予防を視野に入れながら、学習習慣の定着に向けて、家庭との連携・協力を推進する。
		一週間に一冊以上の本を読んでいるか。(図書利用指導に取り組んでいるか。) ＜結果＞児童AB評価74%(+1) 学校における図書利用指導はなされているが、数値的に大きな変化がないことから、家庭における読書習慣の形成が進展していないことがうかがえる。	3	・ 家庭への働きかけを行いながら家庭学習に位置づけたり授業と関連付けたりするとともに、図書委員会の活動の充実を図り、読書活動への興味や関心を高める取組を展開する。	・ 適切に評価されています。 ・ 今後是非この取組を進めて行ってください。	・ 家庭への働きかけを行いながら家庭学習に位置づけたり授業と関連付けたりするとともに、図書委員会の活動の充実を図り、読書活動への興味や関心を高める取組を展開する。
		気もちのよい言葉遣いに気をつけているか。 ＜結果＞児童AB評価84%(+7) 落ち着いた雰囲気や相手が相手の気持ちを意識し自己の言動を振り返ることにつながっていると考える。	3	・ 児童会によるほわほわ言葉とチクタク言葉の取組を継続しつつ、気持ちの良い言葉遣いに対する評価活動や称賛活動を新たに展開する。	・ 適切に評価されています。	・ 児童会によるほわほわ言葉とチクタク言葉の取組を継続しつつ、気持ちの良い言葉遣いに対する評価活動や称賛活動を新たに展開する。
		元気よくあいさつできているか。 ＜結果＞児童AB評価85%(+4) 推進組織の取組が軌道に乗っていることに加え、ボランティアの方々と交わす時の挨拶が子ども達の実感につながっていると考える。挨拶週間後の下火感も解消されつつあ道徳の時間の授業の充実にも努めているか。(発問・教材・教具の工夫と活用)	3	・ 子ども達の意識の継続を図るため、児童会による挨拶運動と挨拶作文を継続実施する。 ・ 教職員は率先垂範行動をとりながら、気持ちのよい挨拶に対しては、称賛を送る。	・ 適切に評価されています。 ・ ボランティアで関わり始めたころより挨拶する子ども達が増えています。 ・ 児童会の挨拶シールの取組は今後も続けてほしいと思います。	・ 子ども達の意識の継続を図るため、児童会による挨拶運動と挨拶作文を継続実施する。 ・ 教職員は率先垂範行動をとりながら、気持ちのよい挨拶に対しては、称賛を送る。
		＜結果＞教員AB評価66%(-9) 荒れの克服や規範意識の醸成に向けて力を置いていた道徳の授業であるが、成果が得られたことで重点としてとらえていないことが評価につながっていると推察される。コーディネーショントレーニングを取り入れた授業づくりをしているか。 ＜結果＞教員AB評価34%(-2) 校内研修を複数回実施するな、導入への組織的な動きはとったが、授業場面に位置づけることに対して難しさを感じていることが厳しい評価につながっていると考える。	3	・ 現行の道徳の充実を図る一方で、「特別の教科 道徳」の実施に備えて組織的に研修を実施するなど、授業充実に向けた取組を開始する必要がある。	・ 適切に評価されています。 ・ 道徳教育の推進を図ってください。	・ 現行の道徳の充実を図る一方で、「特別の教科 道徳」の実施に備えて組織的に研修を実施するなど、授業充実に向けた取組を開始する必要がある。
		＜結果＞教員AB評価90%(+2) 実際の言動との開きも縮小してきており、子ども達の中に意識の高揚が広がってきていると考える。	4	・ 授業への位置づけ方等について具体を提示しながら、係のリーダーシップのもと組織的な取組の徹底を図る。	・ 適切に評価されています。 ・ 嘉麻市のスポーツ推進課にコーディネーショントレーニングを取り入れた学年別体育科授業の導入案の作成を依頼してください。	・ 授業への位置づけ方等について具体を提示しながら、係のリーダーシップのもと組織的な取組の徹底を図る。 ・ 嘉麻市のスポーツ推進課との連携を図りながら取組を進める。
		生徒指導・人権・同和教育	よりよい人間関係	子ども達の話に耳を傾けるようにしているか。 ＜結果＞教員AB評価100%(±0) 学習の躓き等に留まらず、いじめや不登校の未然防止に向けて丁寧な対応を展開していることがうかがえる。	4	・ 教師の基本姿勢として来年度も意識を絶やさず、継続を貫く。
学校のきまりや約束を守る子どもを育てているか。 ＜結果＞教員AB評価83%(+12)・児童AB評価80%(+9) 6年生の姿を良いモデルとして浸透させていったことにより、後輩たちが具体的な目標を描くことができ、評価につながったと考える。	3			・ 行事や児童会活動等と関連付けながら、子ども達自らが声を掛け合い、正しい自己選択を行うことができるような取組を創造していく。	・ 適切に評価されています。 ・ 5・6年生のリーダーシップを育てることで、学校全体が落ち着きます。現在の取組を継続してください。 ・ 取組を高く評価します。	・ 行事や児童会活動等と関連付けながら、子ども達自らが声を掛け合い、正しい自己選択を行うことができるような取組を創造していく。
いじめや不登校児の対策をたてて予防に努めているか。 ＜結果＞教員AB評価100%(+7) 学期毎のアンケートや毎月チェック日を設定し、子ども達一人ひとりの様子や学級の友人関係等についても目を配り、予防に努めることができていると考える。	4			・ 些細な記述でも、気になる内容や情報については、必ず聞き取りを行い、保護者との情報共有に努めることを継続していく。	・ 適切に評価されています。	・ 些細な記述でも、気になる内容や情報については、必ず聞き取りを行い、保護者との情報共有に努めることを継続していく。
日々の生活における健康安全に留意した確かな指導ができているか。 ＜結果＞教員AB評価97%(+8) 約束やきまりをおろそかにしたことではけがに至る子どもの数は、年々減少しており、日常の指導の成果が評価につながっていると考える。	4			・ 健康・安全と学校の約束やきまりを守ることを関連付けながら、落ち着いた学校生活を維持できるよう指導を継続していく。 ・ 病気の流行等への対応の方法を定着させるようにする。	・ 適切に評価されています。 ・ 子ども達が落ち着くと事故が少なくなることが結果として表れていると思います。	・ 健康・安全と学校の約束やきまりを守ることを関連付けながら、落ち着いた学校生活を維持できるよう指導を継続していく。 ・ 病気の流行等への対応の方法を定着させるようにする。
研修	教職員の資質向上	主題研究が計画的に進んでいるか。 ＜結果＞教員AB評価97%(+4) ミドルリーダーが力を発揮し、質の高い研究が展開され、教職員が実践の手ごたえを感じたことが数値からうかがえる。	4	・ 一般研修とのバランスを図りながら研修計画を作成するとともに、研修の成果を生かしながら、本校の教育課題の克服に向けた適切な主題研修を展開していく。	・ 適切に評価されています。	・ 一般研修とのバランスを図りながら研修計画を作成するとともに、研修の成果を生かしながら、本校の教育課題の克服に向けた適切な主題研修を展開していく。
		指導力を高めるために自ら研修の機会を求めているか。 ＜結果＞教員AB評価79%(±0) 主題研究に力点を置いたことで、自主的な研修のための時間を十分に捻出できなくなったことがうかがえる。	3	・ 研修担当に働きかけながら、県教委主催の専門研修や実践的指導力の向上につながる研究発表会等について、積極的な参加を奨励していく。	・ 適切に評価されています。 ・ 可能ならば、研修が必要な先生方を優先的に研修に出すようにしてほしい。	・ 研修担当に働きかけながら、県教委主催の専門研修や実践的指導力の向上につながる研究発表会等について、積極的な参加を奨励していく。
地域・保護者等との連携	学校づくり	保護者や地域との信頼関係づくりを積極的に行っているか。 ＜結果＞教員AB評価86%(-14) 子ども達の課題克服に向けて、丸付け隊を実施したり、トラブルの解消に向けて細やかに家庭訪問を実施したりした。望ましい結果に至らなかったケースが数値に反映されていると考える。	4	・ 細やかな家庭訪問を継続していく。 ・ 地域行事やPTAの活動への積極的な参加を心がけ、意思の疎通が円滑に図れる関係づくりを継続していく。	・ 適切に評価されています。 ・ 保護者への対応は、根気強く続けてください。 ・ 丸付け隊の取組は、継続されることを期待します。 ・ かけ算九九の習得にもボランティアを地域や保護者から募ることを視野に入れて見てください。 ・ PTA活動の折などに、学校側の努力を伝える機会を設けることで協力が得られるかもしれません。 ・ PTA自身の評価をする時が来ているのではないかと。	・ 細やかな家庭訪問を継続していく。 ・ 地域行事やPTAの活動への積極的な参加を心がけ、意思の疎通が円滑に図れる関係づくりを継続していく。 ・ PTAや地域の学校教育への参加の場を広げていく。